

令和元年（ワ）第10940号 損害賠償請求事件

原告 森次 茂廣

被告 株式会社

準備書面 1 4

令和4年2月4日

大阪地方裁判所第26民事部合議係 御中

被告訴訟代理人弁護士



乙第23号証について、次のとおり、主張する。

第1 乙23号証1頁目乃至16頁目までのソースコードと、同号証17頁目以降のソースコードの関係について

1 同号証17頁目以降のソースコードが、現在、サイレントロボで実際に実行しているソースコードであり、乙23号証1頁目乃至16頁目までのソースコードは、同号証17頁目以降のソースコードが制作される過程のものである。

即ち、乙23号証1頁目乃至8頁目の範囲のソースコードは、プログラム名「AiBack.frm」と名付けられており、これは、コンテック社のサンプルプログラムを参考に、テスト用として、最初にADボードのデータ収録確認したプログラムである。

また、乙23号証9頁目乃至17頁目の範囲のソースコードは、プログラム名「form2.frm」と名付けられており、これは、上記 AiBack.frm から派生したプログラムである。以前の使用測定器である振動計VM-52、振動計NL-

1 4 のデータを収録するプログラムである。

この「AiBack.frm」→「form2.frm」という過程を経て、17 頁以降のプログラムが、サイレントロボで実行されているものとなる。

2 InpBuf の配列数が16000になっているのは、コンテック社のサンプルプログラムの配列数が16000だからである。

第2 乙23号証21頁目でデータ保存されるvDataについて

乙23号証21頁目でデータ保存されるvDataは、sub プロシージャ Syori1()内の23乃至24頁目で計算されるvDataで正しい。

ダイマ- Syori1()で、データ収録し、配列vDataにdB計算結果を格納する。

vData(日積算秒数、0) = 振動Lv(dB瞬時値)であり、vData(日積算秒数、1) = 騒音Lv(dB瞬時値)であり、日積算秒数 = 0:00:00を0として積算した秒数で範囲は0~86400である。

第3 乙23号証24頁目のvDataの計算処理、同28頁目のwDataの計算処理で使用されるRangeSouonnDb, RangeShindouDbの物理量について

1 乙23号証24頁目のvDataの計算処理は、同23乃至24頁目でループさせている処理が同24頁目に記載されるクリックされることでループがストップした時のデータを、バックアップとして保存するという計算処理である。

2 RangeSouonnDbは、騒音計の測定レンジ値(dB)である。

RangeSouonnDbは、振動計の測定レンジ値(dB)である。

第4 騒音計NL-21, 振動計VM-52の出力設定(最大出力電圧, レンジ値(乙29p7)等)について

1 騒音計NL-21の測定レンジは10dB毎に次の6段階に設定できる。

20～80dB

20～90dB

20～100dB

20～110dB

30～120dB

40～130dB

出力電圧は0.25V/10dBで最大出力電圧は2.5V（フルスケール）である。

2 振動計 VM-52 は、振動計 VM-52 の測定レンジは10dB毎に次の6段階に設定できる。

20～70dB

30～80dB

40～90dB

50～100dB

60～110dB

70～120dB

出力電圧は0.5V/10dBで最大出力電圧は3.0V（フルスケール）である。

第5 乙23号証47頁目乃至48頁目に記載された API-AIO FUNCTION, 同号証50頁目乃至51頁目に記載された API-DIO FUNCTION について

「API-AIO FUNCTION」「API-DIO FUNCTION」とは、コンテック社のダイナミックライブラリー（CAIO.dll）の関数を、サイレントロボのプログラムにリンクさせたものである。

なお、「API-AIO」は、コンテック社の Windows 版高機能アナログ入出力 WDM ドライバであり、コンテック社がハードウェアへのコマンドを Win32 API 関数(DLL)形式で提供し、Visual Basic や Visual C++など各種プログラミング言語で、ハードウェアの特色を活かした高機能アプリケーションソフトウェアを作成できるものである。同ドライバ内には、すぐに使える基本的な使い方や、手法をサンプルプログラムとして収録され、便利な追加サンプルプログラムも別途用意されている（乙 3 4）。

また、「API-DIO」は、コンテック社の Windows 版高機能デジタル入出力用ドライバであり、コンテック社がハードウェアへのコマンドを Win32 API 関数(DLL)形式で提供し、Visual Basic や Visual C++など各種プログラミング言語で、ハードウェアの特色を活かした高機能アプリケーションソフトウェアを作成できるものである（乙 3 5）。

以 上